

脚 本 名	フツウの私とフツウじゃない私たち
作 者 名	菊本亘孝と岸根高校演劇部
上 演 学 校 名	県立岸根高等学校
あ ら す じ	篠原高校演劇部。秋の大会に向けて話し合いの真っ最中。どんな脚本になるのか、誰が役者をやるのか、そして主役は誰なのか？そんな中、目が見えない系女子のアイは悩んでいた。高校生活最後の大会、悔いなく終わるためにはどうすべきか？「生きるべきか、死ぬべきか、それが問題だ」。おお、なんか演劇部っぽい。そんなフツウの演劇部のフツウじゃない私たちのお話。
作 者 連 絡 先	<a href="mailto:kikumoto@pen-kanagawa.ed.jp">kikumoto@pen-kanagawa.ed.jp</a> <a href="mailto:kick.book.0302@gmail.com">kick.book.0302@gmail.com</a> （どちらも菊本宛）
備 考	第 62 回大会

# フツウの私とフツウじゃない私たち

作…菊本亘孝と岸根高校演劇部

## 登場人物（みんな篠原高校演劇部）

アイ…3年生 女子 目が見えない

ユカ…3年生 女子 部長

クリス…2年生 男子

メグミ…2年生 女子

ミノリ…1年生 女子

カオル…1年生 女子

以下部員役

マコト…2年生 女子

アヤ…2年生 女子

ナツ…1年生 女子

サヨリ…1年生 女子

ツムギ…1年生 女子

音声ガイド…上手の緞帳前につつという

※本公演では目が見えない人向けに音声ガイドをつけております。作品と視覚障がい者との間の架け橋となるだけでなく、誰もが作品を楽しめる工夫のひとつとして考えております。

## 作者注

・音声ガイドをどこでどう入れるのはか自分たちで自由に考えてみてください。

・「部員」となっているセリフも含め、誰がどのセリフを言うのかは自分たちで自由に考えてみてください。

0 オープニング

音声ガイド、舞台上手の椅子の横に立つ。

音声

本公演では、作品と視覚障がい者との間の架け橋となるだけでなく、誰もが作品を楽しめる工夫のひとつとして、音声ガイドをつけております。目を閉じて、役者の息遣いや衣装の擦れる音、足音の響き、そして、音声ガイドの声に耳を傾けてみるのも面白いかもしれません。最後までごゆっくりお楽しみください。

幕が上がる。

1 帰り道 「アイの決意」

アイとユカが舞台袖から歩いてくる。

アイは白杖をつきながら、ユカはアイの半歩先で誘導するように歩いている。

アイ あの手さー。

ユカ なに？

アイ 私たちって3年生じゃん。

ユカ そうだね。

アイ ということは、これが最後の大会じゃん。

ユカ そうだね。

アイ だよー。

ユカ …。

アイ …。

ユカ え、それだけ？

アイ、ユカから手を離す。

アイ いや、いやいやいやいや…。

ユカ 何かあんの？

アイ え、あ、うーん。

ユカ 何？

アイ えー。

ユカ 言ってよ。

アイ えー。どうしよっかなあ。

ユカ じゃあ、行くわ。

ユカ、アイを置いて歩き出そうとする。

アイ 待つて待つて。言うから。えっとね…。  
ユカ …。  
アイ 今年最後の大会じゃん。  
ユカ さっきした、このくだり。  
アイ ユカ、ずっと役者で出てたじゃん。  
ユカ あ、うん。  
アイ 私は、ずっとスタッフ参加だったじゃん。  
ユカ うん。  
アイ 役者つてやつぱり大変？  
ユカ まーねー。セリフ覚えるのもそうだけど、精神力が削られるというか、魂がすり減っていくというか。去年は台本も書いてたわけだし。  
アイ そっかあ…。  
ユカ うん？  
アイ 私つてさあ。  
ユカ うん。  
アイ 目が見えない系女子じゃん。  
ユカ 普通、そういう言い方しないけどね。  
アイ でああ。  
ユカ うん。  
アイ 私もさあ。  
ユカ うん。  
アイ 最後の大会だし…。  
ユカ うん。

二人の会話をかき消すように演劇部が発声練習をしながら舞台に登場する。  
演劇部の練習を BGM にして、二人は会話を続けている（ようにマイムをする）。

アイ 役者やつてみたいなあつて…。  
ユカ え？  
アイ いや、役者希望しようかなあつて。  
ユカ えー！  
アイ そんな驚く？  
ユカ …。  
アイ …、どうかな。  
ユカ いいじゃん、やりなよ、最後の大会だし。  
アイ 迷惑じゃないかな？  
ユカ うーん、ま、大丈夫でしょ。  
アイ 軽いなあ。

転換。

、転換中にユカは制服から練習着に着替える。

## 2 演劇部 「台本どうしよう」

アイ以外の演劇部員が発声練習をしている。  
アイが全体に声をかける。  
発声練習が終わる。

ユカ はい、お疲れ様ー。じゃあ、このまま秋の大会についての話し合いをしちやおうかな。  
部員 はい。

部員、ユカを中心に集まる。

ユカ さて、先週末で新人公演も終わり、いよいよ秋の大会に向けて動き出そうと思います！  
まずは何をしなければいけないかと言うと…。

クリス 台本！

ユカ そのとおり！というわけで、台本んだけど、誰か立候補するよって人いる？

部員、お互いに目配せをするが手は上がらない。  
おもむろに手を挙げるアイ。

アイ 仕方がない、私がやります。

ユカ え？うそ？

クリス …いえ、俺がやります。

部員 いや、私が。

部員 いや、ウチが。

部員 いや、あーしが。

部員 いや、おいどんが。

部員 いや、ミーが。

ユカ あー。(流れを察知して頭を抱える)

次々に手を挙げる部員たち。

みんなの視線がユカに集まる。

ユカ …じゃあ、私が。

みんな どうぞどうぞ。

ユカ バカ！

ユカ じゃあ、私書くからね。いいね？

部員 はい。

ユカ そしたら、役者の希望を聞いちゃおうかな。とりあえず、現時点で役者やりたいなあっ

て考えている人、はい、挙手！

クリス、ミノリ、カオルほか部員が数名手を挙げる。

アイは周囲の様子を伺っているようで、なかなか手を挙げない。

ユカ、そんなアイをみてハラハラしている。

ユカ えーっと…。

ユカ、役者希望の人数を数える。

ユカ 6人？かな。ほか大丈夫？メグミは？

メグミ 私は音響やります。

ユカ ほ、か、は…。

メグミ アイ先輩も音響ですよ。今年も一緒に頑張りましょうね。

アイ あ、その件なんですけどお。

メグミ どうしたんですか、アイ先輩？

アイ えっとお、いや、あの一。

ユカ どうしたの？（棒読み）

アイ 迷惑じゃなかったらあ…。私も、最後の大会だし…。役者をやってみたいなあ…。なんて…。

間。

アイ いや、まあ、あの、その、普通の役でいいから、せつかくだし…。

間。

アイ だめかな？

間。

ミノリ それって…。

メグミ （ミノリの言葉を遮るように）本気ですか？！

アイ あ、うん。

メグミ いや、絶対無理ですよ！だって、アイ先輩、普段だっているんなものにぶつかりながら歩いているじゃないですか？ホリとかSSにぶつかったら大事故ですよ、危ないですって。

間。

アイ いや、まあ、メグミの言うことももつともなんだけど。

みんな、なんとなく暗いどんよりとした雰囲気になる。  
ユカ、パンパンと手を叩き、雰囲気を変える。

ユカ 別にいいんじゃない、目が見えないからって、役者やっちゃいけないっていうルールはないわけだし。

アイ ユカ…。

メグミ ユカ先輩！ホントにアイ先輩に役者やってもらうんですか？

ユカ 世界中探せば、目が見えない役者の人っていると思うし。

メグミ そう言う人はちゃんと訓練をしてる特別な人で…。

ユカ あ、そういえば、カナザワ先輩、普通に目が見えるのにSSにぶつかって、めちゃくちゃ怒られたらしいよ。今でも講習会とかでいじられるじゃん、うちの学校。

メグミ 何かあったらアイ先輩がかわいそうですよ。

ユカ そんなときはそんなときってことで。

メグミ いや、でも…。

ユカ 女は度胸！何でもためてみるものさ。

クリス そうつすね…。そうつすよ。やりましょうよ、アイ先輩！なんなら俺がアイ先輩のことを舞台上でエスコートしますよ！やりましょうよ！やりましょうよ、マドモアゼル！

アイ ぶふー！

ユカ お、それもなかなかいいアイデアじゃん。

クリス ですよ。

アイ 正気か？

メグミ 私、知りませんよ、何が起こっても。

ユカ まあまあ、そのへんはみんなでカバーしていくということ。いい？

部員、多少戸惑いの表情をみせるがユカに促されてうなづく。  
ミノリは釈然としない表情で一連のやりとりを聞いていた。

ユカ じゃあ、さっき確認した人数をベースにして話考えてみるね。

クリス 今年もあて書きですか？

ユカ そだねー。メグミの言ってくれたこともちよつと考えておくから。

メグミ お願いします。

ユカ 役者希望の人たちは、この夏大変になると思うけど、頑張っていきましょう。

部員 はーい。

ユカ あ、もちろんスタッフ希望の人も頑張っていこうーねー。

メグミ あ、はい。

ユカ 残りの時間は、筋トレでもしてよっか。

部員 おえー。

ミノリとカオルを残して部員たちは筋トレをしながらはける。

ユカ　じゃあ、掃除よろしくねー。  
一年生　はーい。

転換。

### 3 部活終わりの部室で 「キャストの行方」

ミノリとカオルと1年生の部員たちが掃除をしている。

カオル　どんな台本になるかな？

部員　全然想像つかないね。

カオル　私、中学のときはユカ先輩の台本出られなかったから、今度の秋大会は絶対出たいんだよね。

ミノリ　そうなんだ。

カオル　うん。ユカ先輩は私の憧れだから。

部員　へー。

カオル　ミノリちゃんって、岸中出身だよ？あそこ強かったよね。

ミノリ　そうだった？

カオル　だって、最後の大会も県で優秀賞だったじゃん。私見てたよ。

部員　私も。岸中すごかったよね。

ミノリ　全然大したことないよ。

カオル　…。

ミノリ　…中学の時の演劇部はさ、先輩とか顧問の権力がめっちゃ強くて、全然面白くなかったんだよね。最後の大会も、結局は部長と顧問だけで話して決めちゃったし。私、顧問に嫌われてたから全然セリフもらえなかったし。

カオル　そうだったんだ、ごめん。

ミノリ　まあ、今は、みんなで話し合っていきましょうって感じがしていいんだけど。

カオル　そうだね。

部員　アイ先輩、役者で出るって言ってたね。

カオル　…そうだね。

ミノリ　意外だったよねー。アイ先輩、スタッフ専門だと思ってたし。

カオル　…。

ミノリ　てかさ、役者ってどうやって決めるのかな。ユカ先輩、あて書きだって言ってたじゃん。

それだと主役もう決まっちゃってるのかな？

カオル　うーん…。中学のときはオーディションもやってたけど。

クリス、忘れ物をとりに部室に戻ってくる。



クリス 俺のスマホ知らない？

部員 これですか。

クリス これこれ、ありがとう。

ミノリ あ、そうだ、クリス先輩！

クリス え、何？

ミノリ ユカ先輩って役どうやって決めるんですか？

クリス いきなり何？

ミノリ 秋の大会について話し合い始まったじゃないですか。それで、役者ってどうやってきめるのかなあって気になって。

クリス えーと、去年はオーディションやったかな。

部員 あて書きなのに？

クリス 自分の想像と違いがないか、確認したいんだって。

ミノリ じゃあ、やつぱり、ほぼ確のオーディションなんですか？

クリス いや、オーディションやって自分の想像を超えることもあるみたいで、そんなときは役者変えるっばい。

ミノリ そうなんですネ。

クリス うん、あんま覚えてないけど。

部員 クリス先輩は役者当確ですもんね。

クリス いや、去年は男の先輩いたからね。

ミノリ そうだったんですか。

クリス ま、そこは俺の演技力で、ね。

一年生 お疲れ様です。

クリス ちよつとちよつと先輩に対してひどくない。

ミノリ 私、そういうのあんまり気にしないタイプなんで。

クリス もうちよつと気にした方がいいって。

ミノリ そういえば、アイ先輩のこと、どう思いますか？

クリス え！？どうって？

部員 役者やりたいって言ってたじゃないですか？

クリス あ、ああ、そっちね。

ミノリ どっちのことだったんですか？

クリス いやいや、こっちの話。

ミノリ メグミ先輩、けっこう言っていましたけど。

クリス メグミはメグミなりに、アイ先輩のこと心配して言ってるんじゃないかな。ほら、家に目の見えないおばあちゃんいるらしいし。

ミノリ まあ、私はちゃんとやってくればそれでいいんですけど。

クリス ちゃんと？

会話をかき消すように演劇部が練習をしながら舞台に登場する。  
転換。

4 演劇部 「一本目の台本 花より男子パラダイス」

練習が一区切りとなる。

アイ はい、お疲れ様ー。じゃあ、このあとは…。

ユカ 台本！

アイ え？

ユカ 書いてきたYOー！

部員

おー。

部員の歓声がうねりとなって部室に響き渡る。

その声を聞いてまんざらでもないユカ。

だが、いつまでたっても止まらないのでやっぱり切れる。

ユカ うるせー！

部員、静かになる。

アイ じゃあ、休憩したら読み合わせ？

ユカ そうだね。データ、グループの方に送っておくから休憩がてら黙読してもらおうかな。

部員 はい。

メグミ ユカ先輩、お疲れ様です。

ユカ ありがと。いやー、今回も大変だった。魂削ったわ。

部員 お疲れ様です。

ユカ さ、読んだ読んだ。私の魂を読んでくれい。

部員、スマホやタブレットを取り出して読み始める。

アイは、スマホにイヤホンをつけて台本を確認する。(ここで読み上げソフトの音をいれたい)

その様子を眺めているユカ。

十人十色、それぞれの反応をする部員たち。

しばしの後。

ユカ 読み終わった？

部員 はい。

ユカ じゃあ、読み合わせをやる前に、作者から少し解説しておこうかな。

クリス (鼻息荒く) お願いします！

ユカを中心に丸くなる。

ユカ 今回は、超王道の高校生ラブストーリーを書いてみました。平凡な女主人公が、学園のアイドルである神宮寺ツバサに一目惚れされて、なんやかんやあってバタバタするラブ&コメディの感じかな。

部員 高校演劇でラブストーリーって珍しくない？

ユカ まあ、そのへんの目新しさも意識して書いてみました。

カオル でも、バタバタするだけじゃなく、ほんわかする感じがして、私は好きです。

ユカ ありがとう。

クリス はい！

ユカ はい、クリス。

クリス これ！めっちゃいいと思います！これでいきましょう！ね、これでいきましょう！ね！ね！ね！

部員 クリス、男が一人しかいないからって鼻息あらずぎ。

クリス いやいやいやいや、そんなことないって。

アイ ちよつとキモいよ。

クリス う、え？！

ミノリ キャラの性格とか設定とかは？

ユカ そのへんはやる人に合わせてもらってもいいかなあって。あ、もちろん、台本のキャラを崩さないようにね。

ミノリ ……

ユカ あ、でも、今回はアイも役者やるって言ってたから、この主人公は、目が見えない盲目の設定にしようかなあと思って。

ミ・メ・ア え？

ユカ 「恋は盲目」っていうのがキーワードなんで。

ユカ そっこのほうがアイも演じやすいかなあって。

アイ マ？

ユカ うん。

アイ え、てゆうことは、私が、この、平凡な女主人公？

ユカ て、ことになるかな。

アイ 私がラブラブする感じ。

ユカ うん。

アイ 私が「クリス」とラブラブする感じ？

クリス いいじゃないですか！

アイ ……

ユカ どう？

アイ ……

しばしの沈黙。

ミノリ ユカ先輩。

ユカ ん？

ミノリ そういうのって…。

アイ やだ！

部員 え？！

アイ 私、ちよつとやだなあ、この台本。

ユカ うそ！

アイ うん。だって、ちよつときついよ、これは。

ユカ まじ？

アイ うん、きついきつい。無理だよ、これは。いや、うーん、どうかなあ。ちよつともう一回聞かせてもらっていい？

アイ、イヤホンをつける。

あつけにとられる部員たち。

メグミ ユカ先輩、私は、アイ先輩に役者で出してもらうのは正直大変だと思っています。

ユカ うん。

メグミ 百歩譲って、役者で出してもらったとしても、この書き方はどうかと思います。

ユカ どうって。

メグミ アイ先輩の気持ちを考えたことありますか？

ユカ え…。

メグミ アイ先輩の障害のことを、そんな出し物みたいな感じで書くのはちよつと良くないと思います。

ユカ いや、私は別にそんなつもりじゃ。

メグミ 障害のことは本人にとってはデリケートな話題なわけですし、観る人にとっても配慮が必要なことだと思います。うちにも目の見えないおばあちゃんいますけど、本人は慣れるまで相当苦労したって言ってましたし。いくら、ユカ先輩とアイ先輩が友達だからといって、それを台本に落とし込むのはどうかと思います。アイ先輩がかわいそうです。

ユカ …。

ミノリ 私も。

ユカ ！？

ミノリ 私も、それはちよつとないなあって気がしました。

カオル ミノリちゃん。

ミノリ だって、そんな設定にしちゃったら役者決まったようなもんじゃありませんか。

ユカ …。

ミノリ 私は、もうちよつと考えたほうがいいんじゃないかなあと 생각합니다。

クリス いーや！僕は絶対にこれがいいと思います！いいじゃないですか、アイ先輩らしさがあって！

メグミ クリスはこの役がやりたいだけでしょ？

クリス いや、面白いですよ、この台本、この設定。これこそ我が篠原高校演劇部の真骨頂って感じですよ！

アイ、イヤホンを外す。

アイ いやー、やっぱりなあ。ちよつと厳しいなあ。

メグミ ですよね？

アイ え、あ、うん。

メグミ (ほら。)

アイ ねえ、ユカ、これってこれで完成？

ユカ いや、まだ変更はできる。

アイ そっかあ。

ユカ アイはどう？やっぱりこの台本は厳しい？

アイ …うん。ちよつとねえ。

ユカ そっか…。

間。

アイ だってさあ、これだとさあ…。

ユカ ごめん！

アイ え？

ユカ 私の覚悟が足りなかった！

アイ …。

ユカ そうだよね、いくら私とアイの関係だからって、アイの気持ちを考えずにそのまま台本に使っちゃまずいよね。ごめん！もうちよつと時間頂戴、台本もう一回考え直してくるから。

アイ あ、ほんと？

ユカ うん、ほんとごめん。みんなもごめんね。

部員 …。

ユカ てか、まじで言ってもらえて助かった。私、台本に集中しちゃうとその辺のバランス感覚がとれなくなっちゃうからさ。次のやつもどんどん指摘して。このとーり。

部員 ユカ先輩…。

ユカ カオルも一年生だからって遠慮せず言っちゃってくれていいからね。

カオル あ、はい。

ユカ みんなもね。

部員 はい。

ユカ じゃあ、ごめん。今日は読み合わせの予定だったけど、もう一回台本考え直すから。このあとは、また、筋トレで！

部員 おえー。

部員、練習に励む。  
転換。

5 演劇部 「2本目の台本 やれやれ、気がついたら遺産をめぐって大騒動になっているんだが」

すでに二本目の台本が各自のスマホに投稿されている。  
黙読している部員たち。

ユカ 読み終わった？

部員 おっけー。

ユカ 前回指摘があったように、今回は全員が普通の役にしてみました。

メグミ 普通？

ユカ あーっと、普通っていうか健常者？目が見えないとかの設定はなく。

ミノリ 役はどうやって決めるんですか？

ユカ 今回はあんまりあて書きって感じじゃないから、オーディションしつかりやるかな。

ミノリ じゃあ、学年関係なく、よければ選ばれるってことですか？

ユカ うん、そんな感じ。

クリス 俺もですか？

ユカ 男役は一人しかないからなあ。

ミノリ …。

ユカ アイはどう？今回の台本は？

アイ いいんじゃない？

ユカ 目に関しては特に考慮してないけど。

アイ 全然いい全然大丈夫。私どっちでもいいし。てか、なんでもやりますよ。

ユカ 良かった。

クリス 俺はちょっと不満ですね。

ミノリ クリス先輩は出番が少ないからですよ。

クリス いや、いや、いや、別にセリフの多い少ないで決めてるわけじゃないし。

ユカ 今回クリス、っていうか男役は、ブサメン・ゴミボの設定だからね。ここだけは譲れない。

クリス なんかなあ、なんかなあ。神宮寺ツバサが良かったなあ。山田シゲ五郎（今回の台本での役名）はやだなあ。

ミノリ クリス先輩も、主人公役に立候補したらどうですか？

クリス いや、主人公女だし。

ミノリ 大丈夫ですよ、演技が上手ければ。

クリス いやあー。

なんだかんだで好感触の台本。だったが。

メグミ ちょっと待ってください。

ユカ …え。

メグミ これって全員が健常者ってことですよ？

ユカ うん。

メグミ それってどうなんですか？

クリス 演劇やっている人なんて、たいてい異常者だったこと？

メグミ そういうこと言ってるんじゃないよ。

ユカ ま、健常者というか、目はみんな普通に見えてるよね。

メグミ 私前言ったじゃないですか、アイ先輩の気持ちを考えてほしいって。

ユカ うん。

メグミ まだこれでも厳しいんじゃないかなあって思います。

アイ 私的にはこういう感じでも無問題（モーメント）だよ☆

メグミ アイ先輩はそうやって言ってくれますけど、それだってアイ先輩なりの優しさだと思うんです。私たちはそれに甘えちゃいけないと思うんです。

クリス 具体的にどこがダメなんだよ。

メグミ 障害を持っているのに、それを隠して健常者を演じさせること自体が、私は差別に繋がるとは思いません。

クリス それってこの前と言ってること真逆じゃん。

メグミ 逆じゃないよ。結局、演劇って見る人の受け取り方によって変わっていくことなんだから、それくらい慎重に取り扱わなきゃいけないテーマだったこと。

ユカ まあ、うん。メグミの言う「見る人によって」っていうのはわかるよ。わかるけど…

メグミ アイ先輩、舞台上どうやって移動するんですか？健常者ってことは、白杖とか使いませんよね。

ユカ ……そうだね。

メグミ だとしたら、絶対危ないですよ。アイ先輩、この部室の中ですら、いろんなものにぶつかるのに。

アイ 暗転移動だったら得意だよ☆なんてたつていつも暗黒のなかで生きているから☆

部員 ……

アイ ……ここ、笑ってもいいところだから、ね。

部員 舞台設定ゴミ屋敷だから、けっこう小道具も散乱してますよね。

ユカ ……

アイ あ、じゃあさ、普通に杖使うキャラにしちゃえばいいんじゃないの？白杖デコちやっつき、魔法の杖みたいな感じにしちゃうとか。

部員 白杖って、デコちやっついていいもんなんですか？

アイ ……あんまり良くないよね。

ミノリ ……ですよね。

メグミ もし仮にこの台本でいくとしても、実際どうやって演技するんですか？人のいないほうにセリフを言っちゃう可能性もあるし、他の人の表情とかリアクションとかもわからないじゃないですか。

部員 確かに。（など同意の台詞）

部員 それは練習していけばいいんじゃない？

ミノリ いや、それはやっぱり厳しいと思いますよ。練習するって言ったって、（限度があると思いません。）

部員 早着替えがあったらどうするんですか？

メグミ　そうですよ。誰か舞台袖で介助しなくちゃいけないじゃないですか。

アイ　クリスがやったらセクハラ案件だもんね。

クリス　ちよつと、やめてくださいよ。

アイ　てへ。

クリス　そんなの、そういう役にしなければいいだけだろ。

部員　そしたら、アイ先輩のやれる役、限られちゃうじゃん。

メグミ　それこそ、役者をやりたいって言ったアイ先輩がかわいそう。普段と違う自分になれるのが演劇の魅力だと私は思うし。

部員たち、アイが役者をやったときのリスクを小声で相談し始める。

部員　（そうだよね）

部員　（いや、でもさあ）

部員　（だったら）

部員　（まあねえ）

メグミ　私は、アイ先輩には今回も音響に専念してもらったほうがいいと思います。

ユカ、おもむろに口を開く。

ユカ　…ミノリはどう思う？

ミノリ　私は、前も言ったと思いますけど、やっぱりアイ先輩に役者をやってもらうのは厳しいんじゃないかなあと。

ユカ　…カオルは？

カオル　え？

ユカ　どうかなあと思っつて。

カオル　私は…。

カオル、答えられない。

ユカ　ん、わかった。ごめんね、急にふっちゃって。

カオル　いえ。

ユカ　アイは？

アイ　いや、ま、私は、色々みんなに考えてもらえるだけありがたいなあと思っつて。みんなが言っつてることは、まさしくその通りだろうし。

ユカ　そっか。

間。

アイ　いやいやいやいや、そんな暗くならないでさ。ほら、私のために争わないでえ。



間。

アイ なんちやって。

間。

ユカ わかった！もうちょっと時間頂戴、台本もう一回考え直してくるから。

クリス まじすか？

ユカ うん、ほんとごめん。みんなもごめんね。

部員 ……

ユカ バシバシ本音言っちゃってくれていいから。台本を生み出した以上、批判されたりダメ出しされたりするのは宿命だから。それを受け入れられないんだったら台本なんか書かないから。

アイ うえーい、かつこいー。いよつ、ハマの三谷幸喜！いよつ、ハマの宮藤官九郎！いよつ、ハマの大魔神！

ユカ ……

ユカ、いつもだったらノリツツコミをするが、今回はちょっと元気がない。

アイ それは野球やないかい。しかもちょっと古いやないかい。ワイ一人でぼけて一人で突っ込んでるやないかい。

ユカ ……

カオル ユカ先輩…

ユカ ……あ、じゃあ、ごめん。今日は読み合わせの予定だったけど、もう一回台本考え直すから。このあとは、また、筋トレで！

部員 おえー。

転換。

6 演劇部 「3本目の台本 深海に潜む神の化身は人類を嘲笑っているのか」

三本目の台本が各自のスマホに投稿されている。

黙読している部員たち。

ミノリ これって…。

クリス ちょっと、俺、理解できなかったんですけど。

メグミ 私も…。

ミノリ カオル意味わかった？

カオル え…、うん、なんとなく。

クリス マジ？

カオル いや、解釈が違うかもしれないんですけど。  
ミノリ 教えて。

カオル たぶん、この舞台中央で微動だにせず見守り続けているのが…（アイ先輩の役で）。

アイ あ、私？

カオル で、その周りを絶えず動き続ける群衆というのが私たちかな。

クリス へー。

カオル 全体的にセリフ少なめにして、身体表現で物語を進めていく感じなんだと思う。

部員 …。

カオル 物語の核心は、まだちょっと私も自信ないけど。

メグミ 今までの篠高演劇部とは全然違うタイプの劇だよな。

部員 こういう系のお芝居、最近減りましたからね。

メグミ 前衛芸術みたいな？

部員 これはこれで大丈夫なんですかね？

アイ なにが？

部員 いや、ユカ先輩のメンタルと言うか…。

ユカ、トイレから戻ってくる。

ユカ ごめんごめん、このところ寝不足でさあ。あ、読み終わった？

カオル あ、はい。

ユカ 今回もみんな普通の役にしつつ、アイの役はあんまり移動がない感じにしてみました。どう？

アイ いや、いいんじゃない。よくわかんなかったけど。

ユカ あれ、伝わらなかった？えっとね、真ん中に鎮座するアイの役は海を司る神ポセイドンで、周りの群衆っていうのはマグロをイメージしてるの。

クリス マグロ？

ユカ うん。静と動を表現したいなあって思ったときに、ずっと動き続けている生き物で「あ、マグロだ！」ってピーンと来て。

部員 …。

ユカ アイの動きを制限しつつ、でも、物語全体には躍動感を出したいと考えたらマグロが降りてきちゃって。そしたら、どんどんどんどん筆が進んじやって。自己最速を叩き出しちゃったよ。結果的に海を舞台にしたことで、環境問題とか人類の滅亡についてのメタファーとかアンチテーゼも含めたんじゃないかな。

アイ めたふあー。

ユカ そのおかげで、二日くらい徹夜しちゃったから、体バキバキなんだよね。いやあ、今回は、今までにないタイプの劇にするために魂削ったなあ。私のほうが滅亡しちゃうんじゃないかって。うんうん。

間。

ミノリ これ、ほんとにやるんですか？

ユカ え、ああ、みんなが「やる！」って言ってくれれば。

ミノリ 私、ひそかに全国大会出場を目標にしているんですけど。

アイ おお。

ミノリ これでそこまでいけるとは全然思えないんですけど。

ユカ …。

ミノリ てゆうか、ユカ先輩の解説聞いたとしても全然理解できなかったんですよ。なんですか、ポセイドンとマグロって。これ、台本読んでいる状態でこれなんですから、審査員とかお客さんにちゃんと伝わるのかなあって。

アイ それは伝わるように工夫すればいいんじゃない。

ミノリ アイ先輩は簡単に言いますが、伝えるのって難しいんですよ。

アイ まあ、まあ、それは確かにねえ。

ユカ つまり…？

ミノリ バシバシ本音言ってほしいってこの前もユカ先輩言ったのでぶっちゃけますけど、正直つまんないです、意味わかんないです、これ。私はこれだったらやりたくないです。

ユカ …。

メグミ …それはさあ。

ミノリ なんですか。

メグミ 台本書いてきた人に対して、失礼じゃない？

ミノリ それはわかりますよ。でも、これで大会出るのであれば、本音を伝えないほうが失礼じゃないですか？終わってから「これよくわかんなかったんですよ」のほうが私は嫌です。

部員 …。

ミノリ メグミ先輩だって、よく分かんなかったって言ってたじゃないですか。

メグミ それは…。

ミノリ みんなはこれで納得なんですか？これで本当に目標の県大会出場できるんですか？

部員たち、ミノリの言葉に押されるようにユカの台本や遅々として進まない練習に対する苛立ちを口にする。

部員 (たしかにこれだとちよっと…)

部員 (いや、これはこれで斬新で…)

部員 (そもそもさあ…)

部員 (ユカ先輩に任せすぎじゃない?) など

苛立ちが波をうつように大きくなる。

そして…。

ユカ うるせー——————！！

部員 ……!

ユカ

さつきから聞いていければ言いたい放題言いやがって！台本書くこっちの身にもなつてみろってんだよ！あゝあ！だいたいどいつもこいつもワガママ言い過ぎなんだよ！こっちがこの台本仕上げるのにどれだけ苦労してると思ってたんだ！もうやめだ！やめやめ！知らん！勝手にやってる！ふざけんな！バーカバーカ！！

ユカ、怒り心頭になりながら部室から出ていく。

カ・ア ユカ（先輩）！！

7 演劇部 ユカが去ったあとは

静かな部室。

それぞれが「やってしまった」という表情でいる。

アイ えーっと、この後どうしよっか。

部員 ……

アイ やっぱ、筋トレかなあ…。

部員 ……

アイ いやー、このままだと夏の間にムキムキになっちゃうなあ…。なんてねー…。

部員 ……

ミノリ アイ先輩…。

アイ はい？

ミノリ 今の状況どう思っているんですか？

アイ どうって…。

ミノリ アイ先輩、三年生ですよね？

間。

アイ よくない感じだなあとは思いますが…。はい…。

ミノリ 篠高の演劇部って、大会の台本選ぶときはいつもこんな感じなんですか？

部員 違うよ。

ミノリ じゃあ、なんで今回はこんな感じになっているんですか？普段と何が違うんですか？

部員 ……

ミノリ 私、本気で演劇やりたいんです。本気で全国大会目指してるんです。本気でもっともつと真剣に練習したいんです！なのになんで…。

部員 ……

ミノリ カオルだってユカ先輩の台本出るの楽しみにしていたんですよ。でも、全然先に進まないし。気がつくともう夏休み入っちゃってるし。どうするんですか？

クリス どうって…。

メグミ ユカ先輩を信じて待つしかないんじゃないの？

ミノリ 信じて待つって言っても、結局出てきた台本にケチつけるじゃないですか！

クリス それはお前だったそうだから！

ミノリ そうですよ、私はあんなの納得できないですよ！

メグミ あんなのって、ユカ先輩に失礼でしょ！

ミノリ だったら何も言わずに従ってればいいんですか！？自分のやりたいこととか自分の  
思いとか自分の考えとか、そんなの全部隠してやっていけばいいんですか？！そんなの  
演劇じゃないですよ！

間。

アイ えーっと、まあ、みんなそれぞれ考えがあると思うけど。それぞれあるっていうのが演

劇のいいところで。えー、たぶん。

部員

…。

ミノリ アイ先輩…。

メグミ ミノリ？

ミノリ アイ先輩が…。

部員

…。

ミノリ 役者やりたいって言わなかったら、こんなことになってないんじゃないですか？

みんなが胸に抱いていた言葉が部室に響きわたる。

今までにない静寂。

アイ そ、そ、そ、そ、それを言われちゃーおしめーよ！。

クリス アイ先輩…。

アイの強がりに似た言葉が痛々しい。

アイ そ、そうだよ。いや、やっぱり、そうだよ。そりゃそうだよ。いや、私もそんな

感じがしてたんだよ。ね。

間。

アイ あ、もしかして、みんなもそう思った？私もそう思ったからさあ。

メグミ アイ先輩！アイ先輩がそんな風に言う必要ないですよ！

アイ メグミ…。

メグミ ミノリ！さっきからありえない！

ミノリ …。

メグミ 台本決まらないのはみんなの責任でしょ。それに、アイ先輩が役者やりたいって言った

時、私以外みんな反対してなかったじゃん。だったら連帯責任でしょ。それなのに、ア

イ先輩だけに責任押し付けられるみたいない言い方。アイ先輩がかわいそう。

間。

ミノリ ……私は。

カオル (遮るように) 違いますよ。

ミ・メ え？

カオル 一番かわいそうなのはユカ先輩ですよ。

ミノリ カオル？

カオル 自分の体調崩してまで台本書いてきてくれたのに、みんなで寄ってたかった文句ばかり言ってるよ。

クリス いや、別に文句を言ってるつもりは…。

カオル 文句じゃなかったら何なんですか？

クリス ……

カオル そんなに文句言うんだったら自分達で書けばいいのに、それすらしないで。

メグミ でも、カオルだって…。

カオル 私は台本書けません。だから、台本書ける人はすごいなって心から思います。だから、

出された台本に向き合って、一生懸命いいところを探します。でも、みなさんは自分

中心のわがままばかり。ユカ先輩がホントにかわいそうです。

俺たちに書けるんだっいたらとつくに書いてるよ。でも…。

カオル でもなんですか？

アイに自然が集まる。その無言の雰囲気を感じるアイ。

カオル やっぱり…。

部員 ……

カオル 目の見えない人が役者やりたいって言ったからですか？

部員 ……

カオル 私はユカ先輩の台本の中でも、最初に書いてきた台本が一番面白いと思いました。ユカ先輩は当て書きだっって聞いて、自分はどの役だろうなってワクワクしながら読みました。

でも、みなさんはそうじゃなかった。

クリス 俺は面白いと思ったよ。アイ先輩とのからみもやってみたくて思っただし。

メグミ 私もいいと思ったけど、アイ先輩のことを考えると手放して推せないなあと…。

ミノリ ……私は。

ミノリ、アイに視線をやる。

ミノリ アイ先輩が出るなら…。

カオル (アイに対して) なんであれがイヤだったんですか？

アイ えっと…。

メグミ 無理しなくていいですよ。

アイ いや…。

カオル あの台本も結局ボツになっちゃいましたよね。

アイ そうだね。

カオル 反対した理由は何なんですか？

アイ …。

カオル だって主人公ですよ？それがイヤだったんですか？

アイ … 私はねえ…クリスが…。

みんなの視線がクリスに集まる。

クリス え？俺？

アイ うん。

クリス え、俺なんか悪いことしました？

アイ いや、その、別に。

メグミ クリスに原因があるなら言ってください。

クリス え？俺が悪いの？

アイ えっと、ほんと、ほんと申し訳ないんだけど。台本さ…。一応設定だと、私が女主人公でクリスが神宮寺ツバサでしょ。

クリス そうですね。

アイ 神宮寺ツバサのセリフでさ。「君は僕の瞳の中の子猫ちゃんさ、僕と一緒に鯉節を食べる夢を見ようZEN☆」ってあるじゃん。

クリス はい。

アイ これ、クリスの声でそんなこと言われたら笑いが止まらない自信があって。ホント申し訳ないんだけど…。

間。

クリス え、そんなことですか？

アイ いや、私にとってはけっこう重要な要素であって。

クリス えー。

アイ ホント、その、ね。いや、まあ、ユカもユカで、どんな深夜テンションで考えたんだよって思っちゃってさ。台本書くのって精神削られるなあって。

カオルの反応をうかがうような空気感。

カオル なんですか、それ？

アイ あ…。

カオル そんなくだらないことで、反対してたんですか？

アイ あ、うん…？





声 めんどくさ。  
声 こらっ、障害者を差別するな。  
声 なんて俺らが怒られなきゃいけないの？  
声 いーよーな、あいつだけ。  
声 しょうがないよ、だって目が見えないんだもん。  
声 そっか。  
声 かわいそう。かわいそう。かわいそう。

アイ、爆発する。

アイ あーいーいー。うるさいうるさいうるさいうるさい。うるさい。私だっ  
て好きで目が見えなくなったんじゃない！私だっで好きでずつとヘラヘラしてるわけ  
じゃない！私だっで…、私だっで好きで障害者になったわけじゃない！私だっで、みん  
なと一緒に普通に過ごしたい…。

静寂。

アイ 私なんて…。

## 9 一連の騒動の翌日。部室

メグミとクリスとミノリと部員が各自で柔軟をしている。  
その空気は重い。  
ユカが遅れてやってくる。

ユカ おはよー。  
部員 おはようございます。  
ユカ ごめんごめん、遅れちゃって。  
部員 まだ準備運動始めたところなんで。  
ユカ あれ？アイとカオルは？  
ミノリ カオルはもうすぐ着くって連絡してきました。  
部員 アイ先輩は…。  
ユカ 連絡なし？  
部員 はい。  
ユカ 報連相はしっかりしてくれないと困るねえ。  
部員 …。

カオルが不安そうな足取りでやってくる。

カオル …遅くなりました。

ユカ おはよう。  
カオル おはようございます。

ミノリ以外は昨日のカオルの様子を思い出し、若干距離をとろうとする。

ユカ (その雰囲気を感じて) どうしたの？

カオル

∴。

メグミ ユカ先輩。

ユカ ?

メグミ 昨日、カオルがアイ先輩に何て言ったか知ってますか？

ユカ ∴いや。

メグミ 気味が悪いって言ったんですよ。

ユカ

∴。

カオル

∴。

ユカ えーっと、打ち上げられたマグロの真似でもしてたの？

メグミ そんなわけないじゃないですか！

ユカ ごめん。

クリス メグミ！ユカ先輩にあたっても仕方ないだろ。

メグミ

∴。

ユカ えっと∴、なんでそんなこと言ったの？

カオル すみません∴。

間。

ミノリ あの、アイ先輩のことなんですけど∴。

ユカ ん？

ミノリ やっぱり役者やってもらうんですか？

ユカ あー。

ミノリ ∴。

ユカ どうしようか？

メグミ 私は反対です。

ユカ ぶれないね。

メグミ だって、どう考えても危ないですよ。舞台上で何かあったら助けられないし。それで傷

つくのはアイ先輩だろうし。

ユカ

∴。

メグミ アイ先輩はやりたいって言うと思いますけど、部活全体のことを考えたら、やめてもら

った方がいいと思います。

ユカ そうだねえ。

メグミ ミノリも、カオルも、言ってみましたし。

ユカ カオルも反対？

カオル 反対…というよりは…。

カオルが返事をする瞬間、制服姿のアイがやってくる。

アイ おはようございまーす。

ユカ あ、おはよう。遅刻。

アイ めんごめんご。

みんなの視線がアイに集まる。

その雰囲気を感じるアイ。

ユカ 今さ、アイが役者やるかどうかの話をしてたの。

アイ そうだったんだ。

ユカ どうするの？やるんでしょ、役者？

アイ (ユカが言い終わる前に) やっぱ、やめとく。

ユカ え？

アイ みんなの言う通りでさ、目が見えない人が役者やったらさ、色々と迷惑かけちゃうだろうし。秋の大会はメグミと一緒に音響やるよ。(メグミに) いいかな？

メグミ あ…、私はアイ先輩がそれでいいなら。

アイ よしつ、じゃあ、今年も私のCDコレクション爆発させちやおうかなあ。

ユカ え？いいの？それで？

アイ …。

ユカ だって、最後の大会だよ。高校演劇はこれが最後なんだよ。

アイ そうだけだよ。でも、私一人のせいでこれ以上振り回すわけにはいかないし。

ユカ …。

アイ ユカには色々と台本書いてもらって申し訳なかったんだけど…。

ユカ …。

アイ あ、目が見えない役の演技指導だったらちゃんとやるからさ。

ユカ なにそれ…。

カオル 私が昨日言ったからですか？

アイ カオル？

カオル 私が、昨日、ひどいこと言ったから…。

アイ …。

カオル すみませんでした…。

間。

ミノリ アイ先輩は、役者やりたかったんじゃないですか？

アイ え。

ミノリ そもそも、役者ってどれくらい大変か知ってますか？

アイ えっと…。

ミノリ 発声とか筋トレとか地道な練習ずっとずっとやって、セリフ覚えて、一生懸命その役のこと考えて。それでも、舞台上立つと真っ白になって上手くいかなくて、失敗ばかりで。

アイ …。

ミノリ 大変なことばかりだつて知ってますか？

アイ …なんとなく。

ミノリ だつたら。

アイ …。

ミノリ なんて、そんなに軽々しく役者やめるなんて言えるんですか？！

アイ …。

ミノリ 私たちを振り回すのもいい加減にしてくれませんか？！

間。

アイ クリスもごめんねえ。

クリス あ、いえ。

アイ クリスの神宮寺ツバサはさあ、どう考えても面白すぎちゃうからさあ。でも、山田シゲ五郎でも笑っちゃうかもしれないかなあ。どうしよう、音響席から笑い声聞こえちゃつたら。ポセイドンはどうする？やっぱり作者のユカがやるのが一番いいかな？

ユカ アイ。

アイ だってさ、作者が一番よくわかってるわけだし。マグロは、あ、みんなで水族館にでも行く？本物みて参考にしようよ。部費で行けるかな？

ユカ アイ！

アイ いや、でもさあ…。

ユカ アイ！

間。

アイ 私だつて好きで目が見えなくなつたんじゃない。私だつて好きでずっとヘラヘラしてるわけじゃない。私だつて…、私だつて好きで障害者になつたわけじゃない。私だつて、みんなと一緒に普通に過ごしたい…。

間。

アイ 私だつて、やりたいことをやってみたい…。

間。

アイ でも、私の目のせいで、みんなに迷惑をかけるんだつたら…。  
メグミ 迷惑だなんて言わないでください。

アイ …ごめんね。

間。

ミノリ アイ先輩は、なんで役者をやりたいって思ったんですか？

アイ …。

ユカ アイ…。

アイ …私、実は一年生のときに役者で舞台上に立ったことあるの。

クリス え？

メグミ そうだったんですか？

アイ うん。そのときも周りのみんなは心配してくれたんだけど、「大丈夫！できる！」って言うて押し切って。でも…。

メグミ でも？

アイ 本番中に舞台から落ちちゃって。

ユカ …。

クリス まじ…？

アイ ほら、普段の教室と舞台の奥行きって結構違うじゃん。それに初めての舞台だってことで、緊張しちゃってさ。結局、そのままうちの学校の上演は中止になっちゃって。

メグミ アイ先輩は大丈夫だったんですか？

アイ うん。みんなは「気にしないでいいよ、怪我がなくて良かった」って言うてくれたんだけど…。私は、自分一人のわがままでみんなに迷惑をかけたことが申し訳なくて。先輩たちはあれが最後の大会だったわけだし。それ以来、役者やるの怖くなっちゃって。

クリス 初めて聞きました。

アイ 言うてなかったしね。

ミノリ じゃあ、なんで…？

アイ …悔い、残したくなくて。

ユカ アイ。

アイ 舞台から落ちたのは怖かったし、ショックだったけど…。でも…。やっぱり、みんなと一緒にやりたいって思っちゃって…。私、演劇好きだから。みんなと一緒に何かやるのはもっと好きだから。

間。

ミノリ だったら…、なんで練習やらないんですか？

アイ …。

ミノリ 私はアイ先輩が役者やるって言った時、正直「うざい」って思いました。だって、アイ先輩、練習参加してませんでしたよね？

アイ …うん。

ミノリ 私は、アイ先輩の目が見えるとか見えないとか、「そんなこと」どっちだっていいんです。メグミ そんなことって。

ミノリ 別に「そんなこと」で怒っているわけじゃないんです。むかっているわけじゃないんです。

アイ ……

ミノリ 私は、アイ先輩が役者やるって言ってるのに、全然練習に取り組まないことに怒ってるんです。

アイ ……

ミノリ しかも、ユカ先輩が書いてきた台本、主人公が目の見えない設定になってるし。これだとアイ先輩が主人公やるに決まってるじゃないですか。

アイ ……

ユカ ……

ミノリ なんて普段から練習していない人が、いきなり、秋の大会で主役やれるんですか！？おかしくないですか？役者って、主役って、そんなに軽いものなんですか？

アイ ……

ミノリ 男役だったら自動的に男がやって、3年生だから練習やってなくても役ももらえて。そんなのおかしいじゃないですか！

アイ ……

ミノリ 男だからそんなに凄いですか？！3年生だからそんなに上手いんですか？！

アイ ……

ミノリ 目が見えないってそんなに特別なことなんですか？！

メグミ 特別なことだよ！

ミノリ ……

メグミ さっきのアイ先輩の話聞いてた？アイ先輩、舞台から落ちたんだよ！怪我しなかったから良かったかもしれないけど、落ち方によっては命に関わるんだよ！

アイ ……

メグミ 私は、今のを聞いて、アイ先輩に役者をやってももらうことは、絶対にできないと思いました。だって、何かあったら取り返しがつかないですよ！

間。

クリス 俺…。

メグミ 何？

クリス あ、ごめん。あの、全然関係ないかもしれないけど、昨日のことがあってちよっと考えたことがあって。

ユカ どうしたの？

クリス えっと、俺、腹くくって、やろうって思いました。やってもないのに文句言うのよくないなって思ってた。文句言う前に、神宮寺ツバサでも山田シゲ五郎でも、それこそ、マグロでも女役でも、覚悟決めて挑戦してみようって。

メグミ それで？

クリス だからどうってことじゃないけど、ユカ先輩も魂削って台本書いてくれてるし、ミノリだって本気で頑張ろうとしてるし、メグミもアイ先輩のこと必死で考えてくれてるし。

メグミ ……  
クリス アイ先輩が役者やると大変なことはきつといっぱいあると思うけど、それでも、やりた  
いて気持ちには大事なかなあと思って。それこそ、我が篠原高校演劇部の真骨頂かなあつ  
て。

アイ クリス。

クリス ユカ先輩。

ユカ ？

クリス 俺の役、オーディションにしてもらってもいいですか？男一人しかいないけど。

ユカ わかった。

クリス もし、ユカ先輩のイメージと違ったら、違うって言ってもらっていいので。

ユカ うん。

メグミ ……

ユカ アイはどうするの？役者、やるの？

アイ 私は…。

間。

アイ 役者、やりたい。

ユカ オッケー。じゃあ、やろう。

アイ うん。

メグミ ユカ先輩、ほんとにいいんですか？

ユカ 本人がやりたいって言ってるんだし。

メグミ またアイ先輩が舞台から落ちて、怪我してもいいんですか？

ユカ そうならないように練習しようよ。

メグミ ユカ先輩！

ユカ 私も、もう二度とあんな光景見たくないから。

メグミ ……

ユカ いきなり目の前からアイがいなくなって。気が付いたら舞台の下で倒れてて。なんであ  
のとき動けなかったんだろうってずっと思ってた。普段よりも面（つら）の方にいるな  
あって思ってたけど、何もできなかった。

アイ ユカ…。

ユカ でも、たぶん、今なら大丈夫だと思う。アイのことも、あの頃よりもずっとずっとよく  
知ってるし。メグミが心配するのはよくわかるけど、そうならないように、みんなで一  
緒に練習していこうよ。

メグミ ユカ先輩。

ユカ アイも、きつとこれからは練習してくれるわけだし。てゆうか、練習しないと役者でき  
ないわけだし。

アイ 頑張る。死ぬ気でやる。

ユカ ミノリはどう？やっぱ反対？

ミノリ ……いえ、私はちゃんとやってくればそれで。

アイ やる！  
ミノリ あと…、役はオーディションで決めてほしい、です。  
ユカ わかった。

間。

ユカ みんなもいいかな？

部員たち、静かにうなづく。カオルは不安そうな顔をしている。

ユカ カオル？

カオル 私は…。

アイ …。

カオル 不安です…。

ユカ 不安？

カオル 自分でも頭の中がごちゃごちゃになっちゃって。

ユカ それはアイのことで？

カオル また何か言っちゃうんじゃないかって。

アイ …何かあったらさ、遠慮せずに言っちゃっていいからね。

カオル え？

アイ ホント申し訳ないんだけど、私、カオルの印象けっこう薄くて。

カオル …。

アイ ほら、しゃべってくれないとどういう人なのか全然わからないからさ。正直、昨日初めてカオルがあんなにしゃべってるの聞いて、どういう人なんだろうって思ってた。

カオル …。

アイ そりゃまあ、けっこう落ち込んだりもしたけど。

カオル …すみません。

アイ でも、それすら言われない方が私には怖くて。

カオル …。

アイ 私にとっては聞こえてくる「声」がすべてだからさ。

カオル …。

アイ だから、一緒にやればもうちょっとカオルの「声」も聞こえるかなあって。

カオル …。

ユカ 大丈夫丈夫。私も最初はアイのことよくわかんなかったし。

アイ ユカ？

ユカ 話していくうちに、なんとなくわかると思うよ。それでもやっぱり嫌なやつだなあって

思ったら、それはたぶん、アイの性格のせいだと思うし。目が見える見えないうち

て。

アイ いやいや、私、性格悪くないし。

ユカ 悪くはないけど、うるさいよね。

ユカ



アイ うるさいって。  
ユカ その辺もゼーんぶひっくりかえってアイなんだと思う。目が見えなくて、うるさくて、盛り上げ役で、LINEの返信くそはやくて、でも実は誰よりも繊細で、心配性で…。  
アイ …。  
ユカ 私よりもおっぱいデカくて。  
アイ おい！  
ユカ やってみるしかないよ。やって失敗したら、またやり直せばいいじゃん。  
カオル …はい、がんばります。  
アイ 最後ので台無しなんですけど。  
ユカ めんごめんご。

なんとなくいつもの演劇部の雰囲気に戻ってくる。

ユカ …というわけで、台本どうしよつか？  
ミノリ やっぱ、一番最初のやつじゃないですか？  
ユカ え、ポセイドンじゃなくて。  
ミノリ はい。  
ユカ 新境地ひらけたと思ったんだけどなあ。  
アイ いや、ないでしょ、あれは。  
ユカ うそ？  
クリス 俺はアイ先輩と一緒にやれるなら、なんでもいいです。  
アイ あ、でも、そうなるとクリスの決め台詞聞かなきゃいけないのか。それ厳しいなあ。  
クリス えー。  
ミノリ 役はオーディションですよね？  
ユカ うん。  
ミノリ 私が、目の見えない役をやることもありますか？  
ユカ 身近なお手本ここにいるしね。  
アイ え、じゃあ、私の役は？  
ユカ それは、外郎売くらいスララ言えるようになってからじゃないの？  
アイ がびーん。  
ユカ あ、結構時間経っちゃったじゃん。じゃあ、練習やりますか？  
部員 はい。  
ユカ アイ、着替えてきたら？  
アイ うん。  
メグミ アイ先輩手伝いますよ。私、家でもおばあちゃんの着替え手伝ってますから。  
アイ あ、大丈夫。一人でできるから。  
メグミ え？  
アイ ほら、練習着は触ればわかるし。前・後ろもタグでわかるから。  
メグミ …そうなんですか。  
ユカ 体育の前も一人で着替えてるしね。

アイ そうそう。  
メグミ ……  
アイ 全部が全部手伝わってもらわなくても大丈夫なんだよねえ。  
ユカ はいはい、急いで急いでー。  
アイ はい。

メグミ、アイの手を引こうとするも、アイはその手を借りずにはけていく。  
その姿を見つめているメグミ。

ミノリ そういえばこの前…。

メグミ ……

ミノリ アイ先輩が自販機で飲み物買ってるの見ました。

ユカ いや、別にそれ普通でしょ。

ミノリ (そうなんですけど、を一個消しました) そうなんですけど、なんかすごいなあって思  
つて。

ユカ 大したことないよ、別に。ってアイは言うと思うなあ。そういうのって生きていくには  
必要不可欠なことで、すごいとかすごくないとかじゃないんだってさ。

クリス へー。

ユカ あ、あれじゃない？演劇部が劇やったりすると「あんな長いセリフ覚えられてすごいで  
すね」って言われる感じ？いやいや、演劇部にとっちゃ、それが普通ですから。

メグミ (誰かに聞こえるか聞こえないかギリギリの声で) じゃあ、私がやっていたことって…。

アイ(声のみ) ねえ、ちよっと、私の噂話してない？

ユカ さっさと着替えてくださいーい。

アイ(声のみ) うえーい。

暗転(以下のセリフは暗転中に舞台袖から聞こえてくる)

ユカ ねえねえ、ポセイドン、やっぱりダメ？

ミノリ ダメじゃないですけど…。

クリス レベル高すぎですよ、あれ。

ユカ そうかなあ。

クリス それよりも、ほら。「君は僕の瞳の中の子猫ちゃんさ、僕と一緒に鯉節を食べる夢を見よ  
うZE☆」

静寂、のち爆笑。

クリス え、ダメですか？めっちゃ神宮寺ツバサじゃないですか？

ユカ ちよっとミノリ言ってみてよ。

ミノリ 私ですか？

ユカ うん。

ミノリ えー。(咳払い)「君は僕の瞳の中の子猫ちゃんさ、僕と一緒に鯉節を食べる夢を見よう  
NE☆」

静寂、のち黄色い歓声。

ユカ じゃあ、次カオル。

カオル え。

ミノリ カオルがんばれー。

転換

## 10 卒業式の後

クリスが舞台中央にいる。

アイが白杖をつきながら登場する。

クリスがアイに声を掛ける。

クリス アイ先輩！

アイ あ、こっちなね。ごめんね。

クリス すいません、わざわざ来てもらって。

アイ 本当だよ。卒業式の後に。

クリス すいません。

アイ なに？

クリス あ、えっと…。

アイ へいへーい、早くしてくれー。

クリス あの、えっと。

アイ へいへーい。

クリス 俺、アイ先輩のことが好きです！付き合ってください。

間。

アイ むり。

クリス え？！

アイ いや、クリスはその感じじゃないんだよなあ。

クリス そんなあ。

アイ 弟というかなんというかね。

クリス じゃあ、弟でもいいんで。

アイ そういう問題じゃないし。

クリス えー。

ユカ、ミノリ、カオル、メグミ、部員がやってくる。

ユカ 終わったー？

アイ あ、うん。

クリス 終わった…。

ミノリ クリス先輩元気出してくださいよ。

クリス はあ。

ミノリ まだチャンスありますって。

クリス はあ。

カオル ユカ先輩、アイ先輩、卒業おめでどうございます。

部員 おめでどうございませう。

ユ・ア ありがとうございます。

アイ なんとか大学も無事に受かって。

ユカ いやー、県大会まで行っちゃったからどうなるかと思ったけど。

アイ なんとかなるもんだねえ。

ユカ ね。やっぱ、ミノリの熱演が良かったのかな。

ミノリ いえ。

ユカ カオルも頑張ってたしね。

カオル ありがとうございます。

アイ えー、私は？

ユカ よかったよかった。

アイ 適当だな、おい。二人の熱い友情はどこに行ったんだよ。

ユカ はいはい。この後は？

部員 駅前のジャンカラで、演劇部後輩プレゼンツ、三年生を送る会です！

アイ いやー、ありがとうございます。

ユカ 明日から学年末テストでしょ？大丈夫なの？

ミノリ 大丈夫ですよ。ね、クリス先輩？

クリス 終わった…。

ミノリ まだ言ってる。

ユカ はいはい。予約何時から？

カオル 13時です。

ユカ え、もうすぐじゃん。

カオル ですね。

ユカ はいはい。じゃあ、ジャンカラ移動するよー。忘れ物ないようにねー。

アイ 最後まで先輩ウインド吹かせまくりじゃーん。

ユカ 行くよー。

アイ 無視すなー。

下手側へ歩き出す。

メグミはその場に立ち止まっている。  
カオルはその様子を気にしている。

クリス　メグミー、先にいくぞー。  
メグミ　…。

アイが立ち止まり、振り返る。  
ほかの部員はそのままユカに導かれるようについていく。

アイ　メグミは行かないの？

メグミ　はい。私は、テストやばいんで。

アイ　そっか。

メグミ　…。

アイ　メグミ、ありがとね。色々。

メグミ　え？

アイ　部活中、手ひいてくれたりとか、作業手伝ってくれたりとか。体の向きがおかしくなつてたら教えてくれたりとか。

メグミ　あ、はい。

アイ　メグミのおかげで楽しい演劇部だったよ。

メグミ　…でも、アイ先輩は私の手伝いがなくても、一人でできたこともたくさんあるんですよ？

アイ　え？

ユカ（声のみ）　アイ早くー、置いてくよー。

アイ　ごめーん。

メグミ　すいません。

アイ　そうだとっても、メグミがいてくれて楽しかったよ。

メグミ　…。

アイ　…じゃあ、また遊びに来るから、そんなときには一緒にカラオケ行こうよ。またね。

アイ、下手へと歩き出す。

アイ　ちょっと待ってよー。こういうとき手を貸してくれるんじゃないの？

ユカ（声のみ）　甘ったれないで自分で歩いてくださいーい。

アイ　クリスー、こういうところだぞー。

アイが去っていく様子を見つめているメグミ。

カオルはメグミに声をかけようとするが思いとどまる。メグミに一礼してアイを追う。

メグミ　いつか、私も、一緒に…。

メグミ、上手へと歩き出す。

緞帳が閉まる。

客電がつく。

音声

以上で、県立岸根高等学校演劇部による作・菊本亘孝と岸根高校演劇部「フツウの私とフツウじゃない私たち」の上演を終わります！

音声ガイド、一礼をして舞台上からはける。

終わり